

課題名

34. ナシの果そう葉数と果実肥大の関係

成果の要約

ナシの大果生産には摘蕾、摘果、人工授粉などの果実管理が重要であるが、それとともに果実肥大に必要な同化養分を確保することも不可欠である。そこで、果実肥大に及ぼす果そう葉の影響を明らかにするため、豊水を供試し、ほぼ展葉が終了した5月中旬に幼果の果径と着葉数を調査した。これを適熟期に収穫し、果実重を測定した。

また、幸水、豊水及び二十世紀について枝令別の果そう葉数を調査した。

- (1) 収穫時は無着葉短果枝の果実が最も小さく、ついで1~2枚着葉短果枝の果実であった。3枚以上では果実重に差はみられなかった。
- (2) 短果枝葉は各品種とも枝令が進むにつれて少なくなったが、特に幸水は2年目にかなり減少した。また、幸水では2年目には30%以上の短果枝が無着葉果そうとなった。
- (3) 以上の結果から短果枝の場合、大果生産には3枚以上の果そう葉の着生が必要なこと、幸水では2年目以降の短果枝の果そう葉数がかなり減少することが明らかになった。

成績

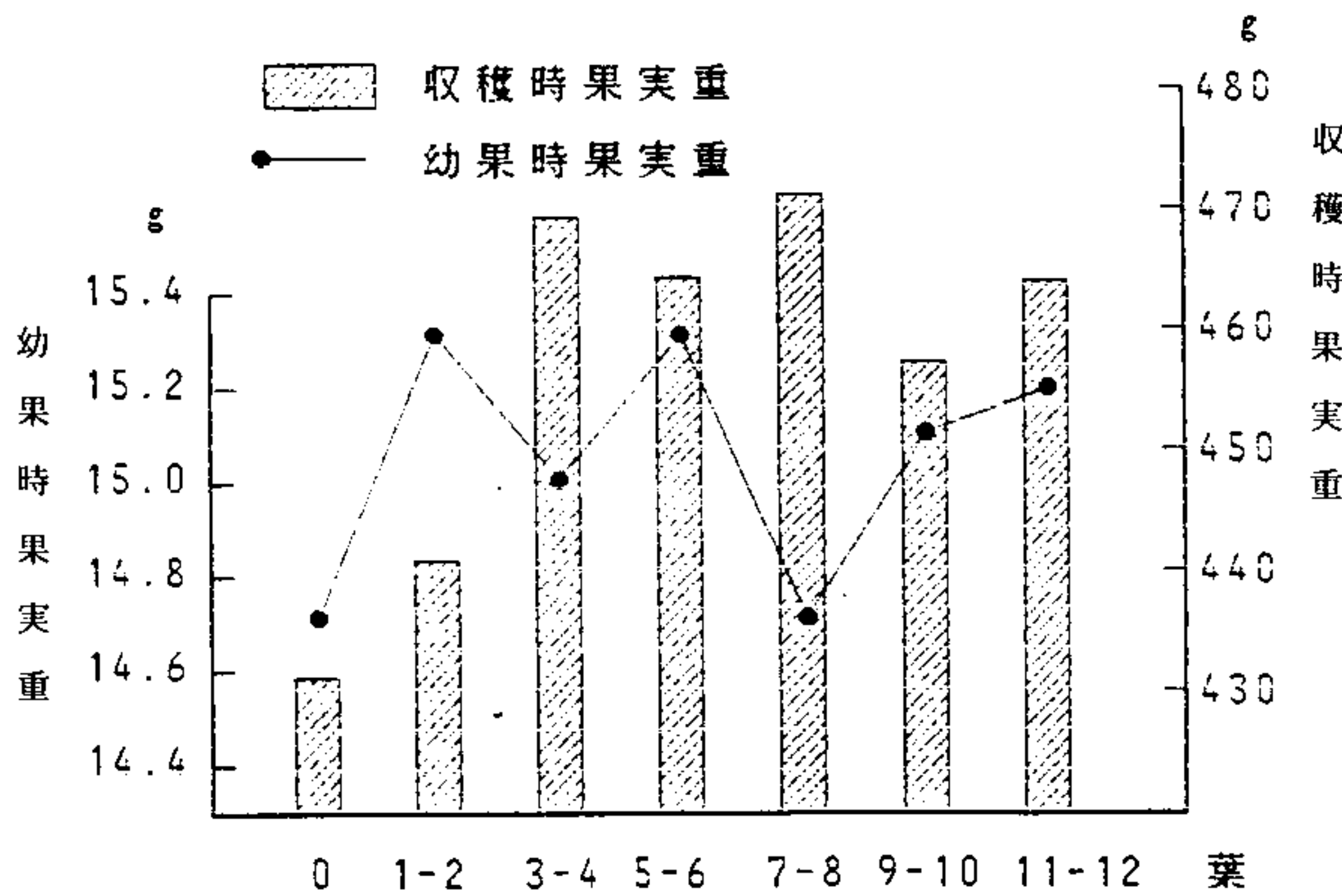


図1 葉数と果実肥大 (豊水)

概

要

表1 品種・枝令別の短果枝葉数と無着葉果そう率

品種名	短果枝葉数(枚)				無着葉果そう率(%)			
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
幸水	6.1	3.8	3.3	3.4	2	34	26	24
豊水	7.6	5.8	5.5	3.8	0	10	16	26
二十世紀	7.8	8.0	4.7	—	0	2	0	—

成

績

概

要

(果樹試験場)

普及上の留意点

(1) 幸水では2年目以降の短果枝の果そう葉がかなり減少することから果そう葉が確保できる腋花芽を多く利用することが重要である。